

2015年8月2日開催

第8回ベーシックセミナー 質問用紙記載の質問

増田先生あて

**【質問】**

食物アレルギーの検査

リンパ球検査…何回か行くと異なる結果得られる（ある意味当然）

10回くらいやると一定の結果が得られる

というお話でしたが

現実的には、1回目のIgE及リンパ球検査を行った後、アレルギーフリー食開始 ①シクロスポリン②プレドニン開始。環境要因に対するアレルギー（アトピー体質）と食物アレルギーの両方が存在すると思われる症例で、①②を漸減すると痒みが再発する例では、リンパ球の検査を再度行いたい場合、①②及③外用ステロイドもすべてストップしないとリンパ球検査の信頼できる結果が得られないと思われる。①②③すべてを最低2週間休薬後リンパ球検査…と考えると何回も繰り返し行うことは、かなり困難と思われます。その間、痒い、つらい、自傷（もちろん他の要因はすべて除外してあるという前提ですが）それでも何回か、リンパ球の検査繰り返し行わないと食物アレルギーの本当の原因物質は、みつけれないのでしょうか？

**【回答】**

学術的には何度も検査することで一定の結果に集約されますが、おっしゃるとおり、臨床現場で何度もリンパ球反応検査を実施することは現実的ではありません。そのため、一回の検査結果で原因食物を推測することで良いと考えます。その際には、要注意域、陽性域の食物はもちろんですが、陰性域のものでも0.4%以上の値も「リンパ球は存在する」として警戒しておくことで良いと考えます。ただし、あまり神経質に警戒しますと、食べて良いものが無くなりますので、陰性域ものは現時点で安全である、と判断して結構でございます。

学問的に真の原因食物を特定することと、臨床的にうまく治療することを分けて考える必要があると思いました。

**【質問】**

猫のワクチンアレルギーの抗原はどういったものなのでしょう？また、その抗原とワクチン接種部位肉腫の原因物質は同じものなのでしょう？

**【回答】**

猫のワクチンアレルギーの原因についてはまだ解っておりません。おそらく、犬と同じで、ワクチンに含まれる牛血清であろうと推測しています。ワクチンアレルギーと摂取部位の

肉腫発生とは、おそらく別の要因と考えています。肉腫発生については、ワクチンに含まれるアジュバント（免疫賦活物質）による持続的刺激、あるいは、肉腫の要因となるウイルスや未知の発がん性物質が関係している可能性を考えております。

**【質問】**

腫瘍疾患で症状なく、同居できているケースの免疫状態はどうなっているのでしょうか。

**【回答】**

特殊な具体例を考察できるデータがなく、きちんと回答することができませんが、腫瘍疾患で症状がなければ大きな免疫変化はないと推測します。

**田村先生あて**

**【質問】**

クモ膜下腔へ投与した骨髄由来単核球は定着せずに、2~3週で消失するということがあったと思うのですが、投与後1年経っても治療効果があるのはなぜでしょうか？

**【回答】**

一つは、我々のラットでの基礎研究では、細胞移植後（30日以上経過後）にもともとある中枢神経内の細胞よりある蛋白を分泌することが明らかになっております（論文投稿前にて詳細はお伝えできません）。もう一つは、リハビリだけでは効果がなかった症例も細胞移植とリハビリを組み合わせることによって効果を得ておりますので、リハビリの効果もあると考えております。

**【質問】**

骨髄由来単核球の投与で効果が得られない、もしくは弱いときに、複数回投与でより良い効果を期待することはできますか？

**【回答】**

基礎疾患として免疫介在性疾患などをもつ症例は細胞のファンクションがかなり異なります。そのようなケースでなければ複数回投与は効果的と考えております。

**指名なし**

**【質問】**

自然リンパ球が腫瘍化する様なことがあった場合、現在あるクローナリティー解析・フローサイトで診断がつくものなのでしょうか。

**【回答】**

自然リンパ球を犬や猫で解析する手法が現在ありませんので、これらが腫瘍化した場合に

は分類不能なリンパ腫とされると思います。クローナリティー解析は、サンプル中に同じT細胞受容体を持つ細胞が多く居ることを掴むことで、補助的に腫瘍を疑うことに利用します。自然リンパ球はT細胞受容体を持たないので、この解析を使うことはできません。フローサイトメトリーでは、細胞表面マーカーに対する抗体を用いて目的の細胞を検出しますが、自然リンパ球の表面マーカーは犬猫ではわかっていませんので、検出できません。

[文責 増田]